



研究部会報告

●合意形成と対外政策●

●第2回

日時：4月21日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総研301会議室 出席者：5名

テーマと講師：「日本通の米国人から見た日米関係」 小林守信(工業計器)

フォーリン・ポリシー90春季号掲載のE.W.スベンサー論文「競争相手としての日本」をもとに意見を戦わせた。著者はハネウェル元会長で在日したこともある知日派であり、特に経済摩擦において日米それぞれがかかえる諸問題やその原因を鋭く指摘しつつ、なお日米が協力し合うべく努力することを双方の指導者に求めており、その捉え方をめぐって論議がかわされた。

●第3回

日時：6月16日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総研501号会議室 出席者：12名

テーマと講師：「東欧圏経済再生のカルテ(コルナイヤーノシュ原著)」 齋藤 昂(防衛庁)

東京新聞連載のハーバード大コルナイ教授と法大盛田教授の対話をもとに討議した。ハンガリーでの実生活によりコルナイ教授は東欧の激変を制度転換すなわち革命と捉え、社会主義の理念と市場メカニズムの共存は難しい、効率性追及の条件は「同一労働同一賃金」の社会主義原理に反すると述べており、これらをめぐって部会内でも議論がかわされた。

●待ち行列●

●第63回

日時：6月23日 14:00~16:30 出席者：29名

場所：東京工業大学(大岡山)南4号館6階677号室

テーマと講師：(1) Simple models of a queue subject to breakdowns. R. W. Wolff (Univ. of California, Berkeley) サーバーが故障と正常の2状態を交互に繰り返す系に対し、到着間隔などがこの2状態の継続時間に比べ小であるという前提のもとでの近似解法を与えた。

(2) On the fundamental period of a queue

with phase-type Markov renewal arrivals. 町原文明(NTT通信網総合研究所) PH-MRP型の到着過程を持つG/G/1について、busy periodを一般化したfundamental periodについて表現式を得る簡潔な方法を示した。

(3) 第29回 ORSA/TIMS (Las Vegas) 出席報告 高橋敬隆(NTT交換システム研究所) 発表論文のうちいくつかを簡単に紹介した。

●動的計画法●

日時：6月25日(月) 18:00~20:00

場所：日科技連 出席者：6名

テーマと講師：第4回 国際ワークショップ(Bellman Continuum)に出席して 蔵野正美(千葉大)

このワークショップはカンザス州立大学で行なわれ、1990年5月21日、22日の両日があてられた。日本からは蔵野正美(千葉大)、岩本誠一(九大)、小鹿文夫(岐阜大)の3氏が参加した。発表はDPはもちろん、その他フェジイ、不変埋め込み、など広範囲にわたり、最後に次回(1992年)日本で挙行することが全員一致して決定された。

●確率モデルとその周辺●

●第14回

日時：6月30日(土) 14:00~16:00 出席者：16名

場所：名古屋工業大学生産システム工学科4階演習室

テーマと講師：Some properties of the mean Concentration function 中田友一(中京大学)

確率分布関数の特性を表わす指標として、P.Lévyが提案したconcentration function、およびその拡張型であるmean concentration functionがある。本報告では、これらの関数が持つ性質について、特性関数との関係を中心に論じた。

●第15回

日時：7月7日(土) 14:00~16:00 出席者：17名

場所：名古屋工業大学生産システム工学科4階演習室

テーマと講師：Production Scheduling and Controlに関する最近の話題 松尾博文(テキサス大学オースティン校)

ネットワーク型を含めた生産ラインにおけるスケジューリング問題について、実際的な面からのアプローチにより論じた。また、アメリカの最近の生産方式について、Just in Timeとの関係を含めて紹介した。